

十月十四日日曜也伊達宗基殿菊次郎亶若公子
 ヲ招フ鈴木大亮伊達基寧ヲ招フ佐藤柴田作
 並隨從ニテ来ル晝飯出し○太代神樂○一ヲ
 呼フ午後三時惣若帰ル○銀行集會所ヨリ被
 招夕刺紅葉館ニ出張ス

十月十五日銀行鈴木知雄来ルお常縁談之事也
 松尾臣善銀行ニ来リ讓堂公分離論ヲ以テ讓
 公ニ説諭ヲ加ヘタルニ同君同意サレタリ僕
 と松尾ニ確と被托タリト云フ因テ伊達宗城
 公ノ内意ヲ聞マホシヤルニ同人ニ托ス廿日

前二盡^又ト申事也

十月十六日 銀行仙臺七十七銀行一件ニ付湯目

陸治郎ヨリ書状到ル〇佐和ニ出會讓公分離

ノ由話ス

十月十七日 新嘗祭蚊屋ヲ瘞ス高木三郎来ル目

賀田同断也午後海舟先生ヲ尋又近頃病ヤノ

由^トレ^トモ最早全快ノ様子ナリ〇仙臺収古

文社第二號来ル

十月十八日 銀行

十月十九日 銀行〇松尾臣善来ル讓公分離論ニ

付宗城公ニ内談ス意見通異存ナシ困ラ速ニ

周旋致吳ヨト云フ

十月廿日土曜銀行

十月廿一日日曜

十月廿二日銀行八巻道成来ル同人ハ仙臺人ナ

リ三井物産會社ニ被雇上海ニ四ヶ年在留此

頃歸リ第一銀行ニ被雇候由也

十月廿三日銀行お常結納取カカシトシテ高橋

是清来ル

十月廿四日銀行午後三十間堀ニ佐和鈴木葺相

會不讓公分家論ニテ有産分割ヲ決定ス左ニ

一録券高金拾三萬四千三百四拾圓

此三分ノ一

四萬四千七百八拾圓也

一現金貳萬圓也

右ハ營業資本之内ヨリ左ノ割合ヲ以分割ス

へシ

明治十七八年

六千五百圓ツ、

合 十九年

七千圓トシ毎年十

二月廿日限り送付スへシ

補助金三千圓右ハ明治十七年より十九年

迄壹ヶ年千圓ツ、六月十二月兩度ニ送付

スヘシ

倫敦森有禮ヨリ書状到ル○大分第二十三銀

行員中尾義三郎磯邊八郎治来五岳之畫持参

ス

十月廿五日銀行○午後佐和、鈴木横尾、松尾

臣善、ヲ宅ニ會ス昨日内議ノ一件ヲ松尾ニ

相談セリ

十月廿六日銀行

十月廿七日 銀行鈴木大亮来ル 竹内家事ノ内談

十
リ

十月廿八日 日曜黒川、松倉、伊達宗亮、江書

状出し岩渕ニモ同断又同人ヨリ書留書信雄

也学費来ル雄也全快帰塾又渡部ヨリ七七

ノ事ニ付内情松隣手ヨリ申来ル

十月廿九日 銀行

十月三十日 銀行〇竹内壽貞食客ニ来ル〇渡部

幸兵衛ヨリ七十七銀行頭取改選云々申来ル

十月三十一日 銀行〇川崎造船所製經基丸放水

式案内ニ而午後四時臨場ス○岩瀨江渡部ノ

依頼難相應ト返書出ス

十一月一日銀行夜地陸銀行被招中村樓ニ遊ブ

十一月二日銀行お常鈴木知雄ニ嫁スお常ハ峯

村宗助ノ長女ナリ宗助昨年病死當時親類佐

々木某ニ同居ス今度鈴木江縁組ニ付余カ養

妹ノ名義ヲ以婚約ス高橋是清仲人ナリ夕不

時鈴木宅ニ行キ夕リ

十一月三日天長節ニ付外務卿官舎ニ被招

十一月四日日曜午後海舟先生ヲ訪フ

十一月五日銀行造士義會例會江出席

十一月六日銀行真男腹痛ニテ夜ニ入り杉田老

人ヲ招キ午當ス十時過平快ス

十一月七日銀行大蔵省江出頭消却紙幣記番号

ノ事ヲ内談ス夜高木三郎来ル〇松尾臣善ニ

出會ス讓堂公分離談弥々内決ノ事ニ申開ケ

ル

十一月八日銀行伊達後象来ル次男支那留学ノ

内談アリ〇松平正直出京ス呼ニ来ル故出會

ス七十七銀行ノ事也都而可否難論ト御話ス

又夜ニ入り山田扶一乗ル同断之用向ナリ

十一月九日銀行

十一月十日銀行三田佶川嶋正訓兼崎彦五郎金

原信近來リ晩食ス

十一月十一日日曜夕刻渡邊ニ行き水道事ニ付

麻布區長江書面ヲ送ルコト相談ス渡邊石井

佐藤連名アリ

十一月十二日銀行〇午後三十間堀ニ集會分離

論ニ付在産所分ノ事ヲ議ス

十一月十三日銀行朝外務卿ニ出會

十一月十四日銀行〇鈴不知雄夫婦初メテ来ル

十一月十五日銀行〇米國留学親睦會ニ付紅葉

館ニ出ツ〇仙臺小野寺大三郎来ル不逢松倉

ヨリ書状到ル七十七の事也

十一月十六日朝大蔵卿ヲ訪不逢、銀行、〇夜

讓公来ラル大野清敬来ル七十七の事也又曰

増田繁幸出京スト微行ト見ゆ大野ノ内話ナ

リ矢張七十七の事ならん

十一月十七日銀行

十一月十八日日曜朝大蔵卿ヲ尋不逢夕方松尾

臣善来ル讓公分離内評也

十一月十九日銀行夜神鞭并ニ速水賢曹来ル晚

食ス

十一月廿日銀行〇松尾ニ出會讓公分離論ヲ議

ス

十一月廿一日銀行〇

十一月廿二日銀行〇夜増田繁幸来ル同人病養

ヲ名トシ出京實ハ七十七銀行動揺ニ付遠藤

敬止之去就ヲ恐レ周旋ニ来シラシメテ綱宗

公馬ノ御畫樂山公御書ヲ持参ス余ニ贈ラシム

十一月廿三日大祭日朝朝比奈相馬來ル午後伊

達從二位公邸ニ行ク鈴木大亮横尾東作佐藤

素拙瀨成田柴田同行ス讓堂公分家ノ内決ヲ

申込ム都而安富ニ内議相整フ

十一月廿四日日曜

十一月廿五日銀行

十一月廿六日銀行午後増田繁幸ヲ日本橋梅也

ニ招ク鈴木佐和余三名也

十一月廿七日銀行夕剋松平正直ノ招ニ而築地

隅屋ニ晩食ス○関虎吉江金百円用立ル

十一月廿八日銀行○仙臺拾古(改之)文社江左之品々

寄送又明日増田繁幸佐久間健兒歸縣ニ付相

托又○鹿鳴館落成ニ付夜會アリ出場又井上

外勢卿主人アリ

十一月廿九日銀行○午後伊達基寧宅ニ被招晚

食又同人弟基祐今度支那語修行として北京

江出立ニ付召厚別杯アリ同人北京行ニ付宮

本小一ニ相托周旋又

十一月三十日銀行○午後鹿兒鳴銀行山田海三

ニ被招賣茶亭ニ飲又

(欄外書込 十一月二日上ニ〇)

十二月一日土ヨウ銀行〇英國留學生懇親會ヲ

壽々也ニ宛ク來會スルモノ二十五六人アリ

此會ニ三条日下余幹事也夜十時過無事散會

又

十二月二日日曜煤拂真男連レ勝先生ヲ尋又

十二月三日銀行伊達基祐清國北京行ニ付吉田

次郎中嶋雄天津室田義文江添書又

十二月四日銀行

十二月五日銀行

十二月六日 銀行西 寺公望来り 伊達從二位ヨ

リ口上アリ

十二月七日 銀行〇西園寺来ルニ位公ヨリ使テ

リ過日 来皇室ニ懸讓公の分離内願手續キ取

調置キタルニ類例不足ノ由ニ付少々手間取

リ可申との事也 若内願ノ事由貫徹セサルニ

於テ者分離論中止スルヨリ外手段ナシ甚困

難也 又内願御用届キトの事判然候ハ、甚

遺憾無窮次第也

十二月八日 銀行〇讓公分離ノ理由書ヲ伊達ニ

(空白)

位公江指出タリ

十二月九日日曜宮本小一ヲ訪ヒ伊達基祐清國

行周旋ノ謝詞申入ル〇庭樹ニ霜ヨケヲ作ル

十二月十日銀行〇朝奥平来ル(空)銀行の事也

〇一箇人貸借ノ事可決ス

十二月十一日銀〇夜鈴木某ノ招ニ而紅葉館ニ

會ス故深澤負財償却内談ナリ會員三野村若

崎渡邊昇子安著也

十二月十二日銀〇朝大蔵卿ヲ訪不逢夜竹内壽

貞ニ被招金杉某来ル

十二月十三日銀行〇夜鹿鳴館ニ大山陸軍卿夜

會ニ被招夜十時過歸ル

十二月十四日銀

十二月十五日銀〇三野村ト橋本内志ノ事ヲ内

話ス〇勝先生ヲ訪フ〇細右直英来ル

十二月十六日日曜朝大槻修ニ来リ洋学史編修

ノ事ヲ議ス〇橋本綱常ヲ訪フ税所篤トヲ訪

フ

十二月十七日銀〇夜讓公佐和鈴木ニ内會ス

會員三野村岩崎渡邊昇子安等也

十二月十八日

十二月十九日銀

十二月廿日銀○朝松平正直ニ會ス細谷直英身

上之事ヲ托ス○午後三十間堀ニ會ス讓公介

家分産約定書ヲ認ム

十二月廿一日銀讓公介財初ハ家録々券三分一

ト極ム然ル(三股)銀行株所持高三分一ニアラサレ

ハ前約ト相反スルト松尾ヨリ嚴敷懸合来レ

株券三分一ナレハ一々餘圓金ノ増加スレ

ハナリ何レナリ先方望ミニ任セ異議アラズ

世人の心事頗ルアサ墓ナキモノナリ一家ノ

分離ヲ計ルニ鎖々タル小利ニ余輩拘泥セン

ヤ可笑可憐

十二月廿二日銀〇松尾江何レ或共望ミノ通り

議決スヘシト答フ〇海舟先生ヲ尋ヌ先生病

弥々快キナリ

十二月廿二日銀

十二月廿三日日曜昨日三十間堀佐藤ニ出會讓

公望ノ通り十五銀行株券三分一分与ノ方可

然と相談ス同人も異議無之依テ右ノ趣鈴木

江相談明日同人ヨリ松尾ニ申入ル、筈ナリ

十二月廿四日銀午後真男遊歩ノ途中ニ引付ノ

模様アリ急行ニテ帰宅ス夫ノ午當ニテ快氣

杉田老人多能来ル

十二月廿五日銀真男今朝ヨリ追々快キ至リ夕

刻ヨリ發汗氣分一飯よし今夕も亦人ヲ付ケ

午當スルナリ明日ハ多分座中ニ遊フナラン

十二月廿六日銀

十二月廿七日銀朝三十間堀ニ立ヨル讓公五分

産ノ事十五銀行株券三分一ノ事ニ決定ニ付

右申入ル〇夕吉原宅被招晩食ス帰途赤坂中

通出火アリ金澤ニ立ヨリたり〇銀行純益配

當ノ事ニ付吉原同道大蔵省江出頭大蔵卿と

内談政府天分人民一割ニ由決ス

十二月廿八日銀

十二月廿九日銀明日執海行ニ付夜支度ス

十二月三十日日曜朝出立八時四十五分ノ汽車

ニテ神奈川ニ至ル同行大槻文彦高橋七三郎

ナリ晝食藤澤午後三時半小田原片岡ニ投宿

又神奈川ヨリ十田原迄馬車

十二月三十一日朝八時片岡ヲ出人力車ニテ午

後四時執海ニ着ス鈴木良三方ニ止宿ス此日

水寒シ

(欄外書込) 十二月廿一日十二月廿五日ノ上ニ「〇」ト記ス

明治十七年一月一日

熱海鈴木や滞留朝来宮ニ至ル途中渡邊供基
 ニ逢フ修善寺へ出立スト云フ今朝天明朗晴
 也日金山ニ遊ント決ス竹輿三挺ヲ雇フ雇價
 一月ツ、ナリ十一時出立登山ス十二時過日
 金山大東寺ニ至ル少シク休ミ又十國峠ニ登
 ル熱海ヨリ日金山迄路程五十丁日金山ヨリ
 十國峠迄ハ丁也夕刻帰ル

十七年一月二日

熱海鈴木屋滞留朝大槻高橋同行ニ而温泉寺

ヲ訪フ寺ハ村内ニ在リ寺僧ニ請フ寶物ノ一
 見申入ル藤公ノ化衣并ニ画像ヲ出ス画像ハ
 吉井友實寄贈ナリ夫レ和田村興禪ヲ訪フ同
 寺ハ八九年火災ニテ寶物燒失スト云政宗公
 御筆ノ雲居和尚ノ画像自讚ノ一幅アリ外ニ
 見ル可キモノナシ○松尾臣善昨日来リタル
 由ニテ尋来ル讓公分離ニ竹譜入費ノ存六百
 餘圓ヲ宇和嶋宗徳公ヨリ借り入レノ内談セ
 ント云フ同公今此ニアル故ナリ余之レ止ム
 讓公先ニ佐藤ヨリ一千餘圓ノ金額ヲ別途ニ

請トリタルコトヲ隱ニ聞ク故ナリ相互帰京
 / 上實否探偵ノ上可然ト松尾ニ申談ス
 一月三日ヨリ六日ニ至ル

熱海滞在日々閑歩浴湯吟詠ノ外他事可記コ
 トナシ知人中滞在ノ内來訪往復ノ分ハ成嶋
 柳地長谷川清松尾臣善矢田部良吉山岡次郎
 寺嶋宗則中嶋雄等也其餘知人滞在ノ人々多
 シト雖此送迎ヲ厭フ毎ノ往來セズ○明朝早
 天出立修善寺ニ遊フコトニ議決ス行李ヲ片
 竹宿屋會計等ニテ事務原田ヨリ多シ

一月七日朝七時執海出立四時修禪寺ニ着ス菊
 屋ニ泊ス葦山江川氏ノ古屋并ニ蛙子嶋等見
 物宮本川一宿ス一夕烟霞ヲ談朝七時出立夕
 六時湯元福住ニ着ス

東京ヨリ小田原馬車一人九十錢

小田原ヨリ執海人力車

執海ヨリ修禪寺人力車一月三十錢

修禪弁ヨリ三嶋江
六人十カ車

三嶋ヨリ湯元江
駕籠一挺一舟三十カ

一月八日朝宮本長ニ別レ告ケ七時頃人カ車ニ

テ修繕^(善)弁ヲ出ツ
路程平垣故車行速ナリ十一

時頃三嶋ニ着ス是レヨリ
駕籠ニテ箱根ヲ越

エ夕六時湯元ニ着一泊ス

一月九日湯元七時頃出立ス
高橋小田原中岡ニ

待ツ之レニ立寄り大槻ト三名ニテ
馬車一輛

ヲ買切り八時過キ発ス夕三時過神奈川江着
夫レヨリ汽車ニテ夕五時半宅ニ安着ス一家
都而無事也

一月十日 本日ハ休足午後吉原ヲ訪ノミ

一月十一日 銀行午後松方ヲ訪不在

一月十二日 銀行午後八百松江西村虎四郎ヨリ

被招

一月十三日 銀行午後郷純造ヨリ被招川長ニ會

ス

一月十四日 銀行夜飯持并後藤某来ルハ孫兵衛

長男也一野蒜米商會社設立發起人ナリト云
 フ之茅ノ人物ニ^(マ)米商ノ業ヲ企ルコト甚夕
 危^(空)候也遠カラズ失敗家産轉倒ノ愁聲ヲ聽カ
 ン(郷里之レ茅ユト類々^(果)タリ諫ムレハ怒リ
 忠告スレハ恨ムナリ女子ト小人如何トモ為
 ス能ハズ只傍觀座視スルニ如ス)

(楠外書上 一月二日 雲居和尚ノ書ヲト記ス)

二月廿九日 一月中旬已來微病と多忙ニ依リ

日記ヲ廢シタルコト今日ニ及ヘリ

○二月十六日 橋本綱常政州ニ出立ス

○二月十六日 日本銀行第三回總會

○二月十七日 造士義會總會佐和ヲ會長ニ進

ム

○二月廿五日 造士義會江金五十円出シ合メ

三百圓豫約金出シ終ル

○二月廿八日 日本銀行ノ名ヲ以參議等紅葉

館ニ招ク

本日真男持病発シ兩三日已前ヨリ風邪熱氣
 少々有リ故ニ持病も発セるナラシ明日ハ本
 快ニナルヘシ今夕充分ノ手當也

(欄外書込) 二月廿九日 / 上ニ十七年・二月廿八日 / 上ニ〇ト

記ス)

三月一日土曜銀行半日造士義會ニ出席ス

三月二日日曜勝先生ヲ訪フ高木三郎紹介ニテ

信州中野本多勝柄来ル長野縣下代理ノ田中

銀行苦情也○岩淵ヨリ書状并ニ雄也学資来

ル黒川ヨリ造士義會出金為替来ル○真男病

キ
也
々
快
方
也

三月三日 雨天 銀行 = 於
支店資本 / 立方如何

ヲ
決議ス
〇
真男病
キ
弥々
快方
樂事
此
レ
ナ
リ

三月四日 無事

三月五日

三月六日 無事 銀行返リヨリ
子安并 = 丸中 絲原

(帰也)

ノ
閑店式 = 被招 暫時立ヨリ
直 = 返ル
〇
松倉

ヨリ
但木履 歴来ル

三月七日 銀行無記事

三月八日 同断 吉井 = 出會
松本 莊一部之事ヲ
聞

合不

三月十一日 銀行無記事

三月十二日 銀行

三月十三日 銀行夜賣茶亭ニ而外山送別也松方

葦束ル

三月十四日 銀行夜八時半ヨリお縫産氣初ルニ

竹長坂永今泉おとふ古山かま方江人遣十時頃

ニ一同揃フ弥々出産ノ模様ナリ

三月十五日 日土曜 甲子午前正一特男子誕生母子

共至極 天也 大夫ナリ

三月十六日 日曜也

三月十七日 銀行出勤ス

三月十八日

三月十九日

三月廿日

三月廿一日 出生次男義男ト命名ス大蔵卿松方

正義ノ櫻定ナリ産婆古谷カマ本日まで止宿

ノ約速^(東カ)ナレトモ尚一週間滞在ヲ頼ム本日義

男七夜ニ付内祝枚田老人夫婦杉田お^(空)魚

泉おとふへ産婆依頼人ニ神鞭相馬ヲ招キ晝

食ス

三月廿九日 今日迄雑雑記事ヲ略ス古谷カマ帰

ル謝義十五圓別ニ三月有料遣シス

三月三十日 日曜 鈴木大亮 大槻兄弟 佐和ト同ク

喜祢川勝先生ノ別荘ニ觀梅 帰途常光寺(藥

師)寺中西郷南州ノ碑ヲ訪フ夜ニ入り帰ル

三月三十一日 銀行

(欄外書) 三月一日ノ上ニ「十七」 三月十五日ノ上ニ「〇」ヲ記ス

四月一日 銀行

四月二日 銀行

四月三日 神武天皇祭 高橋是清橋本留守宅ヲ訪

7

四月四日 銀行

四月五日 土曜 銀行造士義會例會過ル 四日 今戸

伊達江被招 鈴木大亮一同罷出 松尾西園寺来

ル 右ハ同公ヨリ傳言ニ讓公別家ニ付特旨永

世華族ノコト大ケ敷シ 若宇和嶋伊達江 歸籍

ノ上出願十レハ老公ノ勲功ヲ以永世ノ特典

可有之との事ニ付右江引付度松尾ヲ以申入
 レタルニ付其義ハ今戸伊達家ニおゐてハ難
 引受ニ付今一應旧臣より内願可致余伊藤宮
 内卿ニ直話可申との事ニ内談一定ス

四月六日ヨリ

四月九日朝廷毎朝伊藤ヲ訪ヒ今朝漸ク出會也

リ永世華族ノ内願御採用如何ヲ内情吐露相

尋候所永世華族ニ被^例例タルモノハ又特別ノ

勲功アルニアラサレハ到底難被行下去而大

臣ニ内議速ニ返答可致ヒ其餘種々内話ニテ

退
ノ

松方ノ三男米國江出発ニ付被招夕郵ヨリ三

田ニ會入絹手拭十二鯉節一箱ヲ送ル

四月十日朝西園寺公望宅ヲ訪シ昨朝伊藤宮内

卿ニ出會内情ノ状ヲ申述從ニ位公ニ通セシ

ヲ請フ○銀行

四月十一日朝佐藤素拙ヲ尋伊藤出會ノコトヲ

述フ○昨夕迎藤瀆子来ル(雅之)佐所神田松室白町

十番地ニ鈴木大亮ト共ニ幼穉園設立ヲ議ス

昨十日ヨリ今日迄義男門出祝義トシテ赤飯

并ニ鯉節等ヲ送ル義男誕生祝義到来ノ返禮也
明細覺書別ニ在リ

四月十二日銀行朝西園寺ニ立ヨリ分家一条從

二公江三条公ヨリ御内沙汰如何ヲ尋候所何

分永世ノ義難相叶トノ事ニ付此上ハ讓公之

内意圖取吳候様相托し置キ歸ル

夜讓公来ラレ一代華族ナリトモ更ニ異存無

之ニ付分家系ラ可取計段ハ直話ニ付明朝右

之段西園寺ニ申遣ス

四月十三日 日曜書齋ヲ下ニ移ス

四月十四日 義男宮参リ本日目方九百四十目ニ

登ル〇朝横濱ニ出發森公使英國帰リヲ迎フ

二時半頃安着ス一同東京ニ帰ル

四月十五日 銀行朝西園寺公成ニ立ヨリ十五日

申入レタル讓公別家字和嶋方決議開合セ夕

ル所當主初ノ老公ニモ不同意無之由申聞ケ

タリ就テ分家願書認メ指出候事ニ申談ス帰

途佐藤素拙ニ立ヨリ明朝認メ伊達宗徳公江

可相廻様申談ス

四月十六日 銀行伊達讓公分家願指出ス

四月十七日 銀行

四月十八日 銀行夜通渡正太郎来リ頃日来周旋

通リ警視廳へ轉任ナリタルト云フ又

来リ讓公分家願本日御指令齋ノ由報シ

来ル

四月十九日 土曜銀行夕刻ヨリ郷純造宅ニ被招

櫻花宴ナリ来客ハ松方伊藤山田河村土方并

ニ岩崎原善五代等ナリ

四月廿日 朝森公使ヲ訪フ午後枕橋八百松樓ニ

於テ銀行集會所ノ春季宴會アリ被招〇三野
村同行三浦乾也ヲ訪フ

四月廿日銀行〇子安ト謀十二天古像ヲ十二名

ニテ一箇ツ、買得ルヲ約ス不七名梅亭ニ相

會ス

四月廿八日銀行夕刻日下義雄牧野伸顯ノ招キ

ニテ上野精養軒ニ晚食ス主家森公使ナリ餘

七人名何レモ英京同時ノ在勤者也

五月二日銀行朝大藏卿宅江行き中山道鐵道ノ

コト云々ヲ談ス又大藏省ニ行き卿ニ出會同

断

五月三日

五月四日日曜也松本森相馬ヲ訪フ勝先生ヲ見

舞朝より來客多し

五月六日銀行○藤嶋正健リヲンコウ金子弥平

米國行ニ付為留別會紅葉館招カル來會人佐

藤松方西郷川村茅貳十餘在リ

五月九日銀行○森公使帰京ニ付精養軒ニ招キ

晚酌又來會ハ箕作秋坪宮本小一松本莊一部

高木三郎吉原重俊高橋是清鈴木知雄矢田部

良吉

五月十三日岩瀨ヨリ書状到ル金七圓雄也為替

来ル

中山道公債五百萬(圓五)万募集告示出ル

五月十六日銀行〇森有禮氏ノ招ニテ紅葉館ニ

會ス

五月十七日土曜高崎鐵道落成ニ竹見物ノ約ヲ

為ス東京十一時三十分ノ汽車ニ乗り四時高

崎ニ着又馬車ニ而浪川ニ廻リ伊加保香ニ八時

過着木暮八郎方ニ投宿ス同行鈴木大亮松本

莊一郎神鞭知常大野直輔目賀田種太郎余ト
合大人至リ

五月十八日朝伊賀保香ヲ見物八時過人力ニテ淡

川江下ル同所ヨリ馬車高崎へ一時頃着晝飯

四時ノ汽車ニテ東京江八時半着ス

一貳圓 汽車上茅東京ヨリ高崎

一三十五錢 高崎ヨリ淡川乗合馬車

但シ人力ナレハ一里五美ト云フ

一五十美 淡川ヨリ伊加保乗合馬車也

但シ此行大名ニテ一人貳人前貨錢ヲ

その他會合ヲ謝絶シ速行ヲ奉ス故ニ
注意汽車人力箱拂茶代葎總計壹人前
八圓五錢ツ、ニテ出上ル

過日品川農高大輔ヨリ今度同省ニテ官立ノ

商業學校ハ之レ迄東京府設立ハ即森初全葎

ノ創設一學校ヲ引受ニ竹幹事三名ヲ選ミ擔

任ノ都合故波澤榮益田孝ト余ニ引受吳ヨト

ノ内談至リ前西人ハ已ニ兼諾ノ由也資金年

一万圓ツ、同省ヨリ下ケ渡之都合ト云々扱

一高學校ニ如此大金ヲ出シ尚不足ナリトの

内訖官金浪費も亦可驚且右兩人ハ学校ノ幹
 事其適任ナルヤ余彼レ等ト同行ハ一片の旅
 行スヲ好マサル所豈学事ヲ共ニ計ラシヤ因
 テ返事左ニ

拜啓扱過日縷々御内諭之一条尚篤ト勤考
 仕候所過日も略申上候通り小生現今之場
 合ニテハ他之業務ニ従事致候義何分素志
 ニ相背キ殊ニ日本銀行事業も追々増加可
 致ニ付かれ是多情ニ涉リ到底如何也ト懸
 念不少候間何分御請仕難ク候折角之御高

示右様申上候乙ハ甚不本意之至リ恐棟
 候得共懸裏不悪御憐察該一条ハ御取消被
 下度奉懇願候何レ拜老之上詳細具陳可仕
 候得共先ソ前条御断リまて仁如此三御座
 候早々頓首

五月廿日 品川宛

五月十九日 銀行

五月廿日 兩國中村樓

會アリ出席ス六十餘名相會ス幹事ハ松平定

教矢田部良吉三井養之助アリ

五月廿三日銀行〇午後小林年保より弥生社 =
被招夜 = 入り帰ル

五月廿四日夜十二時ヨリ真男熱祭朝二時前例
一通り引付氣味 = 付腰湯等午膏朝 = 至り稍

快キナレトモ夜 = 入り未夕熱氣不去

銀行午後瑞鳳會祭會 = 竹鮫州川崎也 = 會ス

五月廿九日銀行〇小野寺常治氏所持林子平先

生之書翰(拜呈候愈御忙健)藤塚式部宛之

もの同頃所望之品大槻直信固旋 = 而入手快

然快然

五月廿日銀行夕刺賣茶亭 = 村田一郎神鞭知

常相馬永胤卜飲又

五月廿一日銀行○

六月三日銀行○夕刺柏木亭 = 石森某ヲ招キ送

別又同人ハ小倉管所 = 出立ナリ相會スモノ

佐和鈴木大槻直信小野等也

六月十三日銀行の執海貞尔先達已来大學第二
 病院ニ養病ス南ク如ヤ御重病ナリよつて高
 燥之地即本郷病院ニ轉院ノ方可然と鈴大ト
 合議ス因テ同行して執海氏ヲ訪テ同氏轉院
 決定セス

日本銀行副總裁

富田鐵之助

東京商業學校々務商議委員囑托候事

明治十七年六月十日 農商務省

右受今日さし出右委員ノ事先達已来度々内

談ノ祈断リ置キ夕ルニ森氏ヨリ押而依頼ニ
竹義諾候事

(棟外書込 六月十三日ノ上ニ〇)

明治十七年七月廿七日

日曜午後五時半お縫真男義男出立神奈川ニ
向フ榊村江一泊明早朝箱根江避暑也女中兩
人慎太郎真治同行ス

七月廿八日銀行出勤

七月廿九日銀行出勤

七月三十日吉原ト申合本日休ム

七月三十一日同断

八月一日銀行暑キ八十七度箱根真沼ヨリ来書

二一同無事着也暑キ七十三四度ト申来ル

(欄外書込「十七年ト記ス」)

十月十日芝麻布共立幼稚園来(成カ)ル本日ヨリ閑園

又真男出園ス

園長近藤濱子

保母吉村

助手二名也

昨九日池田家ヨリ森下景端來訪同家維持相
談ノコトヲ被托

池田章政君來訪不在不逢

十月十一日銀行午後森有禮邸ニ會ス故鮫島ノ

為紀念碑ヲ建シコトノ發議アリ金二十円募

集ノ見込ヲ以テ半ハ紀念碑ヲ芝公園ニ建ル

コト次ニ其半ヲ大學校ニ納獎字金ト存スコ

ト = 決ス

十月十二日日曜午後三時ヨリ池田家ヲ訪フ松

方君列座ニテ家計ノ相談アリ森下某花房某

ト余ヲ以テ整理ノコトヲ被托

十月十三日朝大蔵省ニ行中村元雄ニ出會ス松

倉事ヲ聞キ併テ池田家ノ事ヲ被話同人ハ森

下并ニ深原源太郎ト旧知ニ付内部雜難ヲ熟

知スル故ニ來ル十六日午後隅屋ニ閑話スル

ヲ約ス金須松三郎長男参リ本日ヨリ被托寄

宿ス金須ニノ宮木村ヲ星ヶ岡茶寮ニ飲ス

十月十四日朝松方ヲ訪池田家ノコト談ス銀行

ヨリ同家ヲ尋ヌ

十月十五日出勤夕精養軒ニ於テ人力社ノ集會

アリ夜ニ入り帰ル

(欄外書込 十月十日ノ上ニ〇)

明治十八年乙酉四月十日出勤

去歲十二月十日大阪ニ出張ス支店管理ノ専

メナリ而メ本年二月十六日帰京ス大阪滞在

中南都西京ニ遊フ日誌ヲ別記ス然ルニ帰來

日誌ヲ筆セズ又々惰慢ノ罪日誌ニ謝セサル

ヲ得ス今日ヨリ再々筆ヲ執ルヲ爰ニ約ス

○お纏一月餘病痾兩三日ヤ、快氣今日初メ

入浴ス未夕床ヲハナレズ橋本兩度多能三

ク度來ル秋田老人ハ今ニ日々診察ス

○昨日金原安修ニ金十円贈ル銀行一斑校正

料
十
リ

○本日東京俱樂部ニ金十二月拂フ本年上半

季ノ會費十リ

○渡邊清来リ金貳百圓ヲ借ンコト請ハル夕

郵便状ヲ以断ル本人ハ旧知ニモアラス近

来頻リニ彼レヨリ来ル余未夕彼レヲ向ハ

ス然ルニ金融ヲ求ムル何事ノ情誼ゾイブ

カ
ス

○今鈴大松倉来ル

四月十一日出勤七十七銀行ニテ中島信成松倉

相鈴大卜相會ス右ハ来月藩祖二百五十回忌

=シテ宗墓殿御東下無之為ノノ内談ナリ

四月十二日日曜幼稚園開園式執行ノ事ニテ同

園ニ會ス鈴大山東笠井川松崎来ル〇真男ヲ

連レ上野競進會ヲ見物ス

四月十三日出勤

四月十四日午夕中鳥信来リ晚餐ス

四月十五日出勤朝佐藤素拙来ル

四月十六日出勤夜松方大蔵卿ヲ訪フ〇銀券袋

行〇伊公使館滞リ借金〇池田家所分〇正金

銀行復来ノ意見〇村田一郎進退等ヲ内談ス

四月十七日出勤朝ヨリ雨天櫻花盛り仙臺大沼

十右工門ヲ越後屋ニ紹介ス松倉ヨリ被托仙

臺平賣捌キの見込協議也

今夕日報々道ニ天津電信使命全シトアリ佐

藤大使ノ談判好結了ト知ラル國家ノ大慶事

也松方ニ祝詞申贈ル

四月十八日出勤朝大藏卿ヲ訪フ兌換銀行券発

行ノコトヲ被談〇午後根岸大槻文彦宛ニ被

招

四月十九日日曜天津談判昨日調印今日伊藤大
 使發程帰朝スト云フ○幼稚園内業式内談ニ
 參會ス○神鞭勝先生ヲ尋フ○佐野今日出立
 仙臺ニ帰ル○大槻修ニ金五圓肴料縮緬一
 反贈ル梅里遺稿編集ノ禮ナリ
 昨日勝先生ヲ訪タル時幸來客ヲ無ク先生無
 聊之様子ニテ閑談時ヲ移セリ其内ニ頃日聖
 上御手許ヨ金四圓ヲ賜ル可ニト御内沙汰
 有タルよし伊藤ヨリ先生ノ負ナル様子ヲ上
 ニ申上吉井ヲ以テ其事御内沙汰アリタル也

然ルニ先生吉井ニ答^エヒタルハ余貧窮ナルハ
 自ラ為ス所ニシテ名利ヲ思ヘハ如此貧ニハ
 苦マサルナリ苦シムハ余カ自ラ為ス所ナレ
 ハ御金杯ヲ賜ルハ實ニ恐入りタル次第今日
 政府之財政中々困難也此間納税ニ苦シム有
 様聞ニ忍ビサル所ナリ此時ニ當リ微力聖旨
 奉安事ノナラサルヲ遺憾トスルニ御金ヲ贈
 フ杯ハ甚タ不本意千萬也御断リ申上ル言ヲ
 演ベタレハ吉井當惑シテ去リタリ甚タ吉井
 ニ氣の毒ト後トヨリ孝ヒタリト言ハタリ而
 (レ脱也)



シメ^(マ)維新後已ニ十八星霜諸將大ニ困疲^(憊)の色

アリ余獨リ淡然意氣昔日ニ陪^シスタルカ如ク

思ハル戦ハズ^(マ)ノ人の兵ヲ屈シタルトハ獨リ

余カ事ナラント一笑セラレタリ東堂詠懷之

詩ヲ全紙ニ揮ヒテ賜ハル

四月廿日出勤大蔵省ニ出宛換券発行ノ事ヲ議

ス

四月廿一日出勤無記事○吉原留主見舞トシテ

折壹ツ贈ル

四月廿二日無記事出勤

四月廿三日出勤真男持病引付ノ夜ニ入り少々

快心ノ方格別ノ重症ニアラスヨシ也或ハ麻

疹ニナランカ〇午倉守人ヨリ被招観花来客

大藏卿ナリ

四月廿四日真男追々快方出勤

四月廿五日出勤

四月廿六日日曜午後鈴大ヨリ被招紅葉館ニ會

又来客ハ遠藤温岡千俣田村(北海道)大槻

文彦ナリ東西南北ヨリ郷友會合ス(岡千俣

清行ヨリ頃日帰朝)

四月廿七日出勤歐米親睦會アリ中村屋ニ集會
 又夜ニ入リ帰ル出席員七十名内外

○南保長病内政困難ノ由ナレハ英京旧友申

合セ贈金ノコトヲ企ツ金五圓指出伊賀陽ノ

助委任トノ金百円大ケ集メ贈与ノ相談ス

四月廿八日出勤伊藤大使清國ヨリ帰朝ス

四月廿九日無記事出勤

四月三十日出勤夕幼稚園ニ會ス来月九日園

式ノ内談ナリ

(欄外書込)

四月十一日上ニフ十八年ト能ス)

五月二日出勤朝大蔵卿宅ニ行キ用事談帰途造

士會例會ニ付出席又佐和清國ヨリ帰リタル

ニ付出席會土産被贈〇銀行一斑校正之厚ノ大

文ニ遣シ又

五月三日日曜春晴勝先生ヲ訪フ仙臺繙五十袋

入用トノ事ニ付松隣兄ニ申送ル又五六歳の

馬壹頭私用買入申遣

五月五日出勤夕橋木綱常ニ被招晩食又屋敷買

入ニ付金談ナリ

五月九日出勤今日兎換銀行券茶行ス〇芝公園

内幼稚園開業式ニ出席

五月十日日曜朝ト夕ト大蔵卿宅ヲ訪フ兒撫券

發行内議〇正金銀行代理店ノコト〇外山辞

表之事也

橋本綱常ヲ訪フ金策相談ナリ

五月十一日出勤夕松方ヲ訪フ兒撫發行上ノ模

様ナリ

五月十二日出勤〇夜鈴木大橋本夫人来ル

五月十三日出勤無記事

五月十四日出勤〇仙臺氏家ヨリ廿四日祭典ノ

コト = 竹書状到ル 鈴木松倉ト同行佐藤ヲ訪
山内談ス

五月十五日出勤○佐藤来ル 菊君東下セザルコ

ト決定ノ由申来ル

五月十六日出勤

五月十七日曜朝佐藤素拙来リ曰ク伊達宗徳

殿ヨリ被談ル、ニ竹菊公子ヲ仙臺ニ下シ候

事一決スト言フ○佐和ヨリ被招鈴木大亮同

行同人宅ニ飲ス帰途佐藤方ニ立ヨリ菊公子

仙臺下リノコトヲ談ス○仙臺早川某土木課

長 = 来リ金策の事ヲ話ス

五月十八日出勤無記○菊殿明日出仙臺江御下

リ也○西山中島氏家江書状出しス

五月廿日出勤朝大蔵御ヲ訪午後大蔵省 = 行ク
(以下三行朱書)

金十月口一マ會 = 出シ合テ三十円也

金二十五月初稚園用業式費用出しス

五月廿一日出勤夕竹内壽貞松倉等来ル

金須松三郎明日下仙ノ由 = 来ル

五月廿二日出勤

五月廿三日出勤夕第十五銀行新築祝義ニ付晚

餐 = 被招来客ハ三條公松方伊藤等五十人程

也○外山より第二回ノ義諾書面到ル○佐久

間健壽金五十円返入ス

五月廿四日貞山公貳百五年祭 = 大井御邸罷在

夕刻帰ル

五月廿五日出勤午後遠藤温岡4俣松倉恂鈴木

大亮ヲ八百松樓 = 招キ飲ス佐和ト相和ス

五月三十一日日曜○貞山公御祭事相調ヒタル

謝議トシテ大井村御邸ヨリ八丈縞一反賜ル

○黒川剛来ル



(車輛)

六月一日出勤第十五銀行豫社西會社鐵道會社

ト十一會社申合セ伊藤西郷井上参議ヲ招ク

朝鮮支那ヨリ無事帰朝祝宴也午後一時ヨリ

上野競馬會社内ヲ借り更角力の興援ヲ立會

又來會五百名餘

六月三日出勤朝大蔵御宅ニ於テ兌換券取扱代

理正金銀行江依頼ノ上申書ヲ出ス然レトモ

後來不調ナラント屢々内陳スル所ナリト一

論申置ク神戸出張所ノコトヲモ許可願書指

出シ〇五代出立帰坂ノ由ニ付暇乞申述ブル

六月四日出勤夕ヨリ信州第十九銀行頭取阿部

八十吉の招キニテ常盤ヤニ飲ス

六月五日出勤〇日下義雄ヲ訪ヒ大條季沼驛通

局出身ノコトヲ托入〇大橋修ニ来ル著述督

責ス〇竹内壽貞明日帰縣スト云フ

六月六日土曜出勤〇造士義會例會日〇政府祭

行紙幣引換例布告

六月七日日曜黒川剛来ル同道海舟先生ヲ訪フ

午後又紅葉館ニ飲ム同酌高橋鈴木知雄木村

岡田小輔ナリ

六月八日出勤大蔵御銀行ニ来ル〇午後森村市

太郎招キニ而樽町酒樓ニ飲ス

六月九日出勤

六月十日朝大蔵御宅ニテ三野村ト相會ス同人

明日大阪ニ出立ヲ決ス外山修造辞職ニ付行

内調査ナリ〇松平正直出京ニ付精養軒ニ飲

ス至人十名客八名ハ松平勤メ黒川郡長等也

一

六月十一日出勤三野村大阪ニ出立夕佐野理八

来ル晩食ス

六月十二日出勤

六月十三日出勤橋本ヨリ屋敷買入談判調ヒ夕

ルニ付金貳千五百圓約速^(秉)ノ由ヲ以テ周旋之

義申來ル三野村不在三井ノ方相談調ヒ兼又

ルニ付暫時銀行ヨリ立替相廻ス

六月十四日出勤

六月十五日出勤人力社集會ニ付精養軒ニ會合

又

六月十六日出勤松方大藏御大阪ニ出立ス

六月十九日出勤松平正直ノ招キニテ濱町常盤

屋 = 飲ム来客ハ河瀬秀治高三郎宮城縣人等

ナリ奈良原繁 = 共同三菱競争仲裁ノコトヲ

談ス

六月二十日出勤午後奈良原ヲ訪フ不在書面ヲ

談ス其要ハ共同三菱仲裁 = 盡力ヲ促スコト

切ナル意ナリ

六月二十一日

六月二十二日出勤夜橋木綱常宅ニテ晩食ス

六月二十三日出勤

同二十四日出勤

同 二十五出勤

六月廿七日出勤

六月廿八日日曜黒川来り泊り星ヶ岡茶寮ニ書

食ス

海舟先方(生カ)ヲ訪大花瓶自製壹箇ヲ被贈

六月三十日出勤

午後旧友金澤良齋三回忌ニ竹紅葉館ニ被招

(欄外書込 六月十六日上ニ「十八年」ト記ス)

七月一日出勤朝井上外務卿ニ出會三菱共同競

争調和ヲ談ス次テ奈良原江書面出ス

七月二日出勤夜伊達宗亮来ル金四十円返入ス

七月三日出勤帰途木村信國ヲ訪フ

黒川一兩日中帰縣ノ由ニ竹見立ナリ山縣内

務卿宅ニ名札ヲ投ス

慈善ノ賄賂ノコト

昨年頃ヨリ権門貴顯ノ夫人ヲ勸メ夫人慈善

會ト云フヲ催シ鹿鳴館ニバサ一ヲ開キ全員

ヲ募集シ私立ノ病院ヲ初メ貧者ヲ賑サント

スルノ仁慈ヲ主張スル一ニノ人アリ之レ海
 外ノ輸入策ナレトモ海外ノ慈仁ハ宗教ノ本
 心ヨリ起ル所ノモノナルニ其本ヲ極メス單
 ニ其皮相ノ輸入ナレハ其弊已ニ賄賂ノ一具
 トナリタルアリ又賄賂ニ至ラサルモ其伍中
 ニ組ミセサレハ其夫人ノ邸ニ出入モ為ス能
 ハザルノ心地スシテ非常ノ困難ヲ極メ出金ス
 ル者アリ千状萬態聞クヲ厭フ事共ナリ
 昨年ノハサノ醜態ハ漸ク論セズ昨今又々
 一種ノ慈善ヲ唱道シテ看病夫学校設立ト云

(護カ)

フ例ニヨリ貴夫人ト自唱スルモノ共四方ニ
 競テ出金ヲ促スナリ之レ多クハ都下ノ商估
 ニ因ラサル可カラズ奸商ハ事ノ實擧ヲ贊成
 シ貴夫人ニ贈ルニ巨金ヲ以テス因テ権門家
 ノ内部ニ近ツクノ路ヲ得テ大ニ喜ブアリ然
 ルニ甲夫人其紳士ニ向テ卿乙夫人ニ若干金
 ヲ義捐セラレタル由也妻ノ募集金未タ乙夫
 人ノ如クナラズ請フ妻ノ募集ニモ亦助勢ア
 ランストヲ乞フト依之紳士又若干金ヲ出ス
 兩夫人モ亦之レト同等ノ言アリ又若干金ヲ

出ス合テ一千金ヲ費セモノアリト聞ク是レ

(心腹)

等必ラズシモ此出金ヲ賠償スルノ策ヲ此貴

夫人等ノ内部ニ求ムルヤ必セリ時勢此ノ如

クナレハ賄賂ノ弊増々勢力ヲ加ヘ慈善ノ實

又言ニ忍ビサルモノアルヲ聞ク所トナリタ

リ嗚呼

奈良原来ル兼テ同氏ニ托ス置キタル三菱共

同而社競争調和ノ件而社合併ノ内約略調ヒ

タル情況ナレハ富分手ヲ下スニ及ハスト云

フ内約整タル上ハ外部ヨリ味ヲ入ルハ及ハ

(三股)

其結果如何ヲ傍觀スルノミ共同ヲ設立ス
 タル政府ノ主旨今ヤ空虚ナリ而ノ今日合併
 セントハ不手際十萬ノ策ニメ一會社ノ專權
 ヲ束縛シ而ノ海路ヲ自由ナラシムルノ策爰
 ニ至テ盡キタリ笑フニ堪タル他ニ途ナキニ
 アラス常人ノ辱ス得ル所カ

吉原ノ妻昨日安産女子出生ト云フ

七月四日

七月五日日曜郷松本ヲ訪不逢黒川今日出立

七月六日出勤伊達末七人來ル不日登米ニ帰ル

ト云フ極テ上策ナリ母子ノ辱メ田舎旧領ニ
住スルヲ賀ス

七月七日出勤朝井上外務卿ヲ訪フ不逢三菱共

同調和ノ企アルコトヲ過日内話セスモ奈良

原ノ意見或ハ余ヲ疑フノ恐レナキ能ハズ故

ニ今傍觀座視スルニ過(ギ)カサレハ一言同卿ニ

内話セシト欲スル故ナリ不日前富岡ニ遊ヒ

タル由ナレハ来京次第又々尋ントス

○伊達寧永星野有信来ル登米ニ帰ルト云フ

○但木錦戸金須輩夏休ニ帰省スト云フ

七月八日出勤

七月九日出勤風邪寒冒ニ付十二時過歸宅夕刻

橋本ニ約アリ三野村ト同行晩食スハ橋本家

作建築費壹万五千圓ヲ三井銀行ヨリ貸出ス

ヲ約ス

七月十日寒冒ニ而終日平臥

七月十一日寒冒ヲ犯シ出勤ス大阪府下水害ノ

報告アリ見舞トノ川嶋正訓明日出立為致候

為メナリ大蔵卿江私状出ス外々ニ書状ヲ

以見舞申遣ス○夜阿部得太郎来ル

七月十二日日曜梅雨初晴ル
○安田善飯田来ル

午後松倉来リ三浦仇ナル者傭口ヲ尋又○大

槻文考来ル又國分齋来ル○夕勝先生ヲ訪

上海樋口忠一ヨリ来書住所清國城内老北門

内馮公館

七月十三日出勤大庭機来ル晚酌ス此人會津旧

藩士ニテ當時箱館之屬吏ナリ廣澤安任ヨリ

副書ニ以テ来ル

七月十四日出勤金子弥平来ル

七月十五日出勤○朝比奈来リ四十五捲膏ノ印

刷機械始末ヲ演フ

(七月十六・十七・十八日、記事朱書)

七月十六日出勤今日ハ松方大蔵御大阪より帰

ラル、よしナレハ午後ヨリ横濱ニ向ヒタリ

五時頃横濱丸ニテ安着セラル直ニ六時ノ汽

車ニテ京ニ入ラル

七月十七日出勤

七月十八日出勤朝松方大蔵御宅ニヨリタルニ

来客多シ午後ニ重テ来ルヘシトノ事故帰り

懸夕四時頃又々参リタリ銀行半季ノ計算等

之内話ヲナス帝室割付金ノ事ハ明日伊藤宮

内卿 = 内話 / 上尚決し^スへしと申サ^ル

○ 渡邊清仙臺産牛既押懸入用 / 由依頼アリ

タル故一組取ヨセ遣し^ス代料五圓位ナレハ贈

与セス^シ所返禮トテ五岳の畫讚一枚被贈

七月十九日日曜三ヶ月前ヨリ朝夕渋滞シテ發

言自由ナラス橋本ニ検査ヲ乞タルニ咽喉刀

タルニテタビレアリトテ沼原ヲ始ム

七月二十日出勤

七月二十一日出勤午台花房瑞連森下景端ヨリ

被招柳橋柳老樓ニ飲ス

七月二十二日出勤難波来ル咽喉ニ薬ヲサス

八月一日数日来筆記ヲ誤ル病痾アルニアラス

暑氣ト事務トノ多クニテ夜中蚊軍盤大燈下

ニ固ル能ハサル為ナリ

出勤

八月二日日曜勝先生ヲ訪津田仙近来貧困益々

迫ル依テ先生ヲ依頼家産ヲ賣却ニテ借財ノ

義務ヲ終ラントス依テ先生ニ内話ス御縫

明日箱根行ナリ支度ニテ多忙

八月三日出勤○お縫真男義男箱根江出立不隨

員莫沼慎太郎乳母フヤ守リき人上下七名十

リ諸費貳百圓見込之十リ昨年ノ實費ヨリ豫

定不箱根古右忠兵衛方滞在ノ見込之朝六時

出立六時四十五分ノ汽車ニテ発車不神奈川

ヨリ貳足立馬車ニテ八時出立ノ由佐野帰リ

報不荷物ハ壹足馬車ニテ拵参ス

八月四日東風終日雨○お縫一行昨日夕五時小

田原江安着ノ報知来ル○出勤夕五時より紅

葉館ニ被招外山ヨリ

八月五日雨如昨日夕方快晴暑キ八十度出勤○
 森ヨ人^マ来ル午後同氏ヲ訪ヒ公債賣却代残大
 百餘圓相渡又同人夫人箱根行望ニ付其旨お
 縫江中遣候真治ヨリ来書小田原滞留ノ由也
 本日毛雨天ナレハ滞留ナラン○小網下四下
 目九番地平藤太郎ヨリ来書ニ金成善衛門妹
 急い井上常次郎妻夫婦平ニ止宿ノ所宿拂不
 相立ニ竹拂吳候様申来ル急いと申者モ知ラ
 ス又井上ノ妻女ナルモ知ラズ且ソ井上妻女
 ノ負債弁償ノ理由無之旨答フ

八月六日雨又晴風位不定出勤夕剋鈴木大亮氏

来ル岡鹿門病体快方ナラズ明朝橋本ヲ訪フ

約ス

八月七日朝橋本ヲ訪ヒ岡千仞病体ヲ説キ診察

ヲ乞フ出勤夕剋岡宅ニテ橋本ヲ侍ツ七時頃

来ル診察シ曰ク座骨空痛自ナリ方劑ヲ与フ

難波来ル

八月八日出勤西三日雨氣荒模様(十腹)今日快晴

常ニ服ス暑キハ十三度夜相馬村田有強来ル

上林熊二郎来リ金五十円カセト云フ五六年

モ来ラズ突然来リ金談スルモ亦不審ナリ世
ノ不融通ナル故カ断リテ不應

八月九日大暑八十五度大松澤来ル興業銀行起

ルト大政官ノ一吏員ヨリ私ニ聞ク所ナリ地

券ノ集合已ニ多シ之レヲ抵當スルノ法ヲ聞

カント云フ余不知ト答フルノミ○海舟先生

ヲ訪ヒ津田仙借財ノコトヲ内話ス先生カラ

ヲ洩ラル、由ヲ諾ス○仙臺ニテ買入レタル

三歳青鬼首着ス

八月十日出勤

八月十一日全

天晴レ暑キハ十六度前後

八月十二日全

聖駕還幸

八月十三日全

八月十四日全

八月十五日日本銀行惣會夕紅葉館ニ飲ス

八月十六日曜日曜朝鈴火ト同行大井村江罷出ル

勝先生ヲ訪フ又夜ニ入り岡鹿門ノ病床ヲ訪

フ

八月十七日出勤夕川上左七郎来ル

八月十八日

八月十九日

八月廿日

八月廿一日

八月廿二日 大坂ヨリ川上來リタルニ付紅葉館

ニ招ク大蔵卿加藤与倉初ノ三野村等合十二

名

八月廿三日 日曜和久井角田ヨリ被招濱町常盤

屋ニ飲ス

八月廿四日 出勤夜橋本ニ被招洋食

出勤

八月廿五日出勤 岩渕 江馬代 等五十三圓 為替ヲ

以テ送ル

八月廿六日出勤

八月廿七日出勤

八月廿八日 池田會計調再調ニ深原ニ渡又出勤

八月廿九日出勤

八月三十日 日曜橋本ヲ訪ヲ

八月三十一日 出勤 夜杉山岩三郎来ル 閑話ス

(欄外書込) 八月一日 八月八日 八月十七日ノ上ニ 十八年ノト

又八月三日ノ上ニ 八十度已上半晴ヲ七時降雨ト記ス

九月一日曇矣暑大ニ減ジタリ出勤

九月二日曇時々少雨

九月三日出勤、半晴半雨昨夜錦戸金子出京ス

小野清製表三刑法一覽表刻成リ二部ヲ携ヒ

来被贈〇昨夜松倉来リ芳賀雄助帰郷ヲ望ム

故旅費ヲ給与セシヲ説ク金拾円ヲ与テ

九月四日出勤

九月五日出勤

九月六日お縫真男義男箱根ヨリ帰ル両児莊健

避暑ノ効著シ

九月七日出勤昨日ヨリ曇天暑キ大ニ減ス

九月八日出勤朝大蔵御ヲ訪フ出勤

藩翰譜一部ヲ求ム代金貳圓也

九月九日出勤

九月十日出勤北京伊達祐寧江送金百弗ノ分ト

シテ紙幣百壹圓三十拾弍枚ヲ以テ夏取ル百

七拾弍ヲ以テ銀貨ヲ買入ル

○昨日伊達寧永来ル○お経不快ナリ

難波来リ訖案シ口トスナル又ヤト云フ明日

来ル約速ス

九月十一日池田家會計調查報告并ニ家事不居

合ノ状況視察ヲ松方御ニ内陳ス○御縫右耳

ノ口一スハ丹ト云フ一昨夜ノ発熱三十八度

三分ニ付大ニ心痛スタル所夜半ヨリ減シ朝

平熱夕刻三十七度五分夜ニ入り平熱トナル

難波一來訴ス先ソ輕症トラント云フ安心ノ

事也

九月十二日出勤○三菱共同兩社ノ合併ニ付共

同ノ資産取調ニ付不當ノ所意アリトテ紛議

起リタルト云フ余ノ前見スル所ナリ都テ政

府 = 在ルモノ自負自尊ノ致ス所ナリ○北京

中島雄伊達寧祐 = 書状認ム伊達基寧ヨリ送

金銀貨百円明日吉田次郎 = 托シ送致セント

又○お縫病体輕快ナリ大ニ安心

九月十三日曜日吉田二郎江北京送金銀貨百円

ヲ托ス併テ中島雄伊達寧祐江ノ書状ヲ托ス

之レ寧雄學資金ナリ又基寧江右ノ事ヲ郵便

ヲ報告ス○勝先生ヲ訪フ

讀史餘論、新寶手簡兼山麗澤秘策ヲ求ム三

部代金貳圓八十枚

九月十四日出勤即電話ヲ以松方ヨリ三條公邸

ニ被呼横濱在留外人某公債買入之事也

○午後二時松方邸ニ池田章政ヲ招キ内話ヲ

リ同象之事整理上ノ事ニ付同氏内情ヲ吐露

セシムルニ父子ノ關係尤甚敷、杉山岩三郎

来ル○

九月十七日松隣兄出京又○出勤

九月十八日

九月十九日松方伯ト池田家ヲ訪フ財務總會計

調査齋ト尔来紛議ノ家族相談人ノ決定ヲ諭

又相談人ハ花房森下景端、原田一郎小原重

哉園新吾杉山岩三郎河原可信也深原源太郎

ハ相談ノ列ニ加ハルヲ辞ス

九月廿日日曜終日在宿ス

九月廿一日出勤○朝杉山岩三郎来ル池田家家

政調理ノ禮也又同氏深原不正ノ証として同

氏より水原ニ指出タル金子請取証書三四枚

ヲ持参ス深原ハ約束不正ノ人物ニして旧藩

内ニ身ヲ置ク能ハサル人物ナルニ近來松方

伯ノ引立テテ以テ大蔵省ニ出身此度旧主家